

ウェブマスター必見! すぐに役立つ

ホームページの アクセスログを 調べよう

ウェブマスターにとってどんな人が自分のページを訪れているかというのは重要な問題だ。訪問者の情報を分析すればサイト作りの参考になることも多い。そこでアクセスログの分析法を徹底解説しよう。一歩先行くホームページを作りたい人は要チェックだ。

津田大介 + 椿浩和

ホームページ 視聴率アップ

訪問者の使用OSとブラウザが
わかり、ホームページ作成に役立つ
どこからリンクされているかわかる
人気のあるページがわかる

アクセスログでわかる訪問者情報!!

アクセスログというのは訪問者の情報が記録されたテキストファイルのことをいう。記録するプログラム(CGI)によって、形式はさまざまだが、普通は以下の情報が書かれている。きちんと見方を覚えてどんな情報がログに詰まっているのか把握しよう。

訪問日時がわかる

訪問者がページを表示した日時が記録される。サーバーやアクセスログのCGIによっては日本の標準時で記録されない場合があるので注意したい。

ホスト名やIPアドレスがわかる

アクセスした人のインターネット上の場所(ホスト名やIPアドレス)が書かれている。アクセス環境によってはIPアドレスのみでホスト名が記録されていない場合もある。

【例】

2000/5/3(Wed) 09:32:29 aaaa.bbbb.ap.so-net.ne.jp (210.139.xxx.yyy)

Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 5.0; Windows 98; DigExt) http://www.impress.co.jp/

ブラウザの種類がわかる

ブラウザの種類が記録される。「Mozilla」というのは本来ネットスケープ社のブラウザを指すのだが、インターネットエクスプローラの場合は「Mozilla/4.0」のあとに「compatible; MSIE 5.0」などの文字列が付加される。

OSがわかる

ブラウザの種類の中にカッコ書きでそのブラウザのOSが書かれている。マッキントッシュのブラウザの場合はOSのバージョンまではわからないことが多い。

どこから飛んできたかがわかる

どこからそのページにジャンプしてきたかが書かれている。普通は検索サイトやそのページへリンクしているページになるはずだ。ここを細かく分析することによって、どのようなユーザーが来ているのか把握できる。

アクセスログ取得CGIプログラムを使うための 4大チェックポイント

アクセスログを取得して解析できるCGIスクリプトは数多く作られ、インターネット上に公開されている。自分のページに組み込むだけで、履歴が調べられて便利だ。だが、CGIの導入前にはチェックすべき項目も多い。あらかじめ確認しておこう。

① プロバイダーのサポートは？

セキュリティの問題から、ユーザーが作成したCGIスクリプトの使用を禁止しているプロバイダーも多数ある。こうしたところでは、あらかじめプロバイダーが用意したCGIスクリプトしか利用できないようになっている。オリジナルの(あるいはウェブサイトからダウンロードした)CGIを使いたいなら、ユーザーCGIの利用を許可しているところを選びたい。大手の中でも、@nifty、ぷらら、BIGLOBE、Hi-HOなどはユーザーCGIが利用できる。

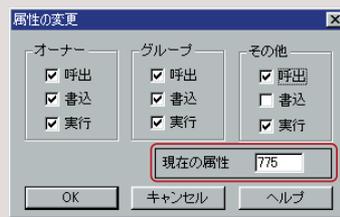
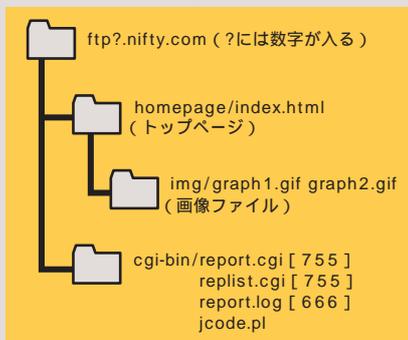
主要プロバイダー10社のCGIサポート状況

プロバイダー名	自作CGI	自作SSI	使用可能言語	パス
@nifty		x	Perl、シェルスクリプト (sh)	#!/usr/local/bin/perl
BIGLOBE		x	Perl、sh、csh	#!/usr/local/bin/perl5
DION	x	x	-	-
DreamNet	x	x	-	-
DTI	x	x	-	-
OCN	x	x	-	-
ODN	x	x	-	-
PanasonicHi-HO			Perl、sh、csh	#!/usr/local/bin/perl
So-net	x	x	-	-
ぷらら			Perl、sh、csh	#!/usr/local/bin/perl

② CGIの設置場所を確認する

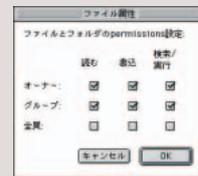
スクリプトを置く(アップロードする)サーバー上のディレクトリーの位置は、プロバイダーで異なっている。たとえばBIGLOBEはホームページ用ディレクトリーならどこに置いても構わないが、@niftyやHi-HOなどは「cgi-bin」という特別なディレクトリーにしかスクリプトを置けないし、ぷららはCGI用のFTPサーバーが別に用意されている。スクリプトの作成やアップロードするときに迷わないように、あらかじめチェックしておこう。

CGI設置例 (@niftyの場合)



パーミッション設定

CGIスクリプトをアップロード後、サーバー上の各ファイルにパーミッション(ファイルの属性)を設定する。付録CD-ROMに収録された「FFFTP」(ウインドウズ用)(左)や「Fetch-J」(マッキントッシュ用)(右)などのFTPソフトを使うと、比較的簡単にパーミッションを変更できる。



③ Perlのパスを正確に知る

インターネット上にあるCGIスクリプトの多くは、Perl用に書かれている。こうしたスクリプトを利用する場合、加入しているプロバイダーがPerlをサポートしているか、Perlの場所はどこか、の2点を確認しておく必要がある。

CGIが使えるプロバイダーのほとんどがPerlをサポートしているが、その位置は微妙に異なる。一般的には「/usr/local/bin/perl」だが、BIGLOBEでは「/usr/local/bin/perl5」とPerlのバージョンも記述する。また「/usr/bin/perl」になっているプロバイダーもある。プロバイダーのウェブサイトではCGI利用について説明された部分を読み、Perlの位置を正確に覚えておきたい。



HTMLタグ

アップロードしたCGIを動かすために、HTMLファイルにもいくつかのスクリプトを埋め込む必要がある。リンクを張るだけの掲示板CGIよりも、若干複雑だ。

④ 「.htaccess」が必要かどうか

利用するプロバイダーやサーバーによっては、「.htaccess」という特別なファイルが必要になることがある。これはアクセス制御を行うファイルで、CGIスクリプトと同じディレクトリーに保存して使う(複数CGIを動かす場合でも、このファイルは1つでOK)。主要プロバイダーの多くは「.htaccess」ファイルを不要としているが、会社や学校のサーバーでは必要になることもある。知識としては覚えておきたい。

CGIプログラムでアクセスログを取得する

視聴率アップのためにアクセス状況を解析したいなら、まず「いつ・誰が・どのように」あなたのホームページにアクセスしているかを知る必要がある。「EASY アクセスログ」を使って、アクセスの記録をデータベース化しよう。

【EASY アクセスログ ver.2.1】

EASY CGI
Jump www.net-easy.com

ホームページへのアクセス記録を、DBM データベースの機能を使って取得するCGI スクリプト。アクセスログの取得だけでなく、各種の解析機能も備えている。オプションで、アクセスカウンター用CGI スクリプトと同期がとれるのも魅力だ。

① プログラムのダウンロード

まず、EASY CGI から CGI スクリプトをダウンロードする。必要なのはアクセスログ生成用の「ezlog.cgi.txt」と、表示用の「view.cgi.txt」の2つ。必要に応じてボタン用画像「log.gif」もダウンロードしておこう。

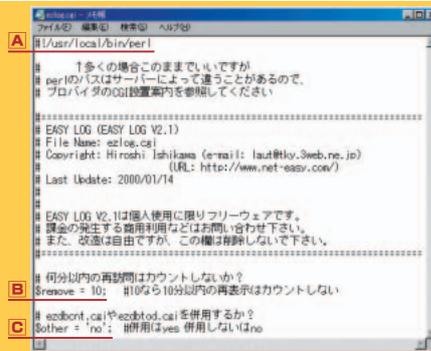


ダウンロードした2つのCGIスクリプトとlog.gif、そしてlockファイルはすべて1つのフォルダーにまとめておく。

② スクリプトの書き換え

ダウンロードした2つのCGI スクリプトを、自分の利用している環境に合わせて書き換えていく。まずテキストエディターで「ezlog.cgi.txt」を開き、必要項目を書き換えていく。注釈の形で変更が必要な箇所が明示されているので、それを参考に書き換える。主な変更点は右のとおりだが、なかでも重要なのはスクリプトの1行目だ。今回テストを行ったBIGLOBEの場合、1行目の記述を「#!/usr/local/bin/perl5」とする。

書き換えが済んだら、「ezlog.cgi」という名前前で保存しておく。同様に「view.cgi.txt」も内容を確認して修正後「view.cgi」という名前前で保存しておく。

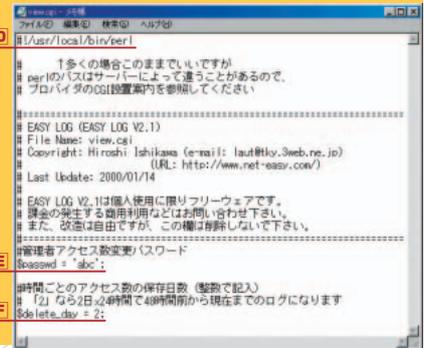


[ezlog.cgi]

A #!/usr/local/bin/perl
Perlのパスを正確に指定する。もしわからなければプロバイダーのサイトを見るか、問い合わせる。
B \$remove = 10;
トップページ (index.html) など短時間の間に同じ人から何度もアクセスされる可能性がある「一定時間内の再アクセス」をどこまでカウントして記録するかを決める。ここに指定した数値は「分」を表し、「分以内の再訪問はカウントしない」ことを意味する。
C \$other = 'no';
アクセスカウンターと同期をとるために利用するのが「ezdbcnt.cgi」などの別スクリプトだ。これを使う場合、ここを「yes」に変更する。今回はアクセスログの取得だけなので「no」としている。

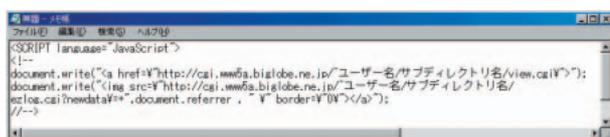
[view.cgi]

D #!/usr/local/bin/perl
注意点は「ezlog.cgi」と同様だ。BIGLOBEを利用する場合、「#!/usr/local/bin/perl5」と書き換えておく。
E \$passwd = 'abc';
管理者用画面でホスト名やブラウザ情報の閲覧ができるので、管理者用画面にジャンプするためのパスワードを任意に設定する。
F \$delete_day = 2;
時間単位のアクセス数を保存して解析する機能がある。ここでは、時間ごとのアクセス数をどれだけ保存するかの日数を設定する。



③ HTML ファイルへの組み込み

アクセスログを取得したいページ(トップページのindex.htmlなど)のHTML ファイルをテキストエディターで開き、CGI を動かすためのJavaScriptを追加する。とに続く部分には、それぞれ「view.cgi」「ezlog.cgi」の場所を記述しておくこと。編集が終わったHTMLファイルは元の場所にアップロードする。



上段にはview.cgi、下段ではezlog.cgiの位置を指定する。上記はBIGLOBEでも「www5」で始まるサーバーを利用しているユーザーの場合の設定例。プロバイダーごとに設定方法は異なるので、事前に確認しておくこと。

④ アップロードとパーミッションの設定

最後にウィンドウズのメモ帳などで「lock」と名付けた空のファイルを作る(拡張子はtxtでOK)。これと編集が終わった2つのCGIファイル、画像用GIFファイルは、仮に「log」と名付けたディレクトリにまとめてサーバーにアップロードする。パーミッションの設定は、CGIファイルが「755」、lockファイルは「666」になるようにしておく。

⑤ アクセスログの取得

アクセスログを取得したいページをブラウザで開くとボタン画像(アップロードしたGIFファイル)が現れるのでクリックしてみよう。アクセスログ集計画面が表示され、設定した管理者用パスワードを入力すると日時、ホスト名、ブラウザなどの情報が閲覧できる。



ログ解析スクリプトを導入する

アクセスログを解析するCGIスクリプトは、インターネット上で数多く配布されている。なかでもユーザーの人気が高いのが、KENT WEBにある「Access Report」だ。ここでは、その具体的な組み込み方法を紹介しよう。

【Access Report】

KENT WEB
www.kent-web.com

すでに2万件以上のダウンロード回数を誇る人気スクリプトの1つ。アクセスログの解析を行い、1日や1時間ごとの集計やリンク元の取得などができる。SSIは使わずにCGIだけで動作するので、大半のCGIが利用できる）プロバイダーで使えるのが魅力だ。

① プログラムのダウンロード

まず、KENT WEBからスクリプトファイル「report.lzh」（またはreport.zip）をダウンロードする。LhasaやStuffit Expanderなどのソフトで解凍し、解凍後にできた6つのファイルを、任意のフォルダーにまとめて保存しておく。

② スクリプトの書き換え

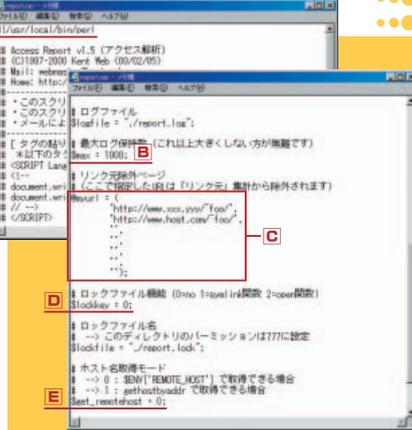
アクセス情報を保存する「report.cgi」と、解析結果を表示する「replist.cgi」の2つのCGIスクリプトを、自分の環境に合わせて書き換える。書き換えにはテキストエディターを使う。右に、主な変更項目を列挙した。特に1行目は重要だ。

③ HTMLファイルへの組み込み

Access Reportを使ってアクセスログを解析したいページ（たとえばトップページのindex.html）のHTMLファイルをテキストエディターで開き、CGIスクリプトを動かすためのJavaScriptを追加する。タグの「SRC=」に続く部分には、report.cgiのURLを記述しておくこと。@niftyの場合、下のような記述になる。

```
<SCRIPT Language="JavaScript">
<!--
document.write("<img src='http://hpcg1.nifty.com/ユーザー名/report.cgi?'");
document.write(document.referrer+" width=1 height=1");
// -->
</SCRIPT>
```

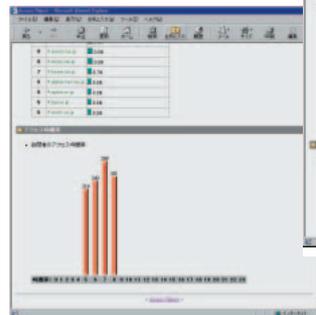
どの時間帯のアクセスが多いかをグラフ表示する「アクセス時間帯」。



```
[report.cgi]
A #!/usr/local/bin/perl
プロバイダーで定められたPerlのパスを指定する。
@nifty、Hi-HOなどでは変更の必要はない。
B $smax = 1000;
蓄積するログの最大数を設定する。最大でも1000以内に抑えよう。
C @myurl = (
'http://www.xxx.yyy/ foo/',
);
ここで指定したURLは「リンク元」集計から除外される。下位のページから戻った場合をカウントしたくない場合には「http://homepage1.nifty.com/ユーザー名/」などのように指定する。
D $lockkey = 0;
同時に2つ以上のアクセスが重なると、ログファイルが破損してしまう可能性がある。それを防ぐために用意されているのが、このファイルロック機能だ。基本
```

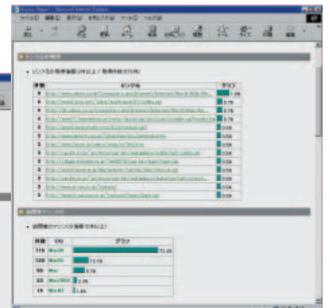
④ アップロードとパーミッションの設定

ファイルをアップロードする。通常はすべてのファイルを同じディレクトリーに置くが、@niftyでは若干異なる。画像ファイルはHTML用の場所に、ほかのファイルは「cgi-bin」に置く。アップロード後、パーミッションの設定を行う。CGIファイルは245ページの画面で「現在の属性」の数字が「755」、データファイルのreport.logは「666」になるようにしておこう。



⑤ アクセスログの解析

以上でAccess Reportが動くようになる。JavaScriptのあるページを一度表示させてから、ブラウザのURL入力欄に「http://hpcg1.nifty.com/ユーザー名/replist.cgi」のようにreplist.cgiのURLを直接入力すると、アクセス解析の結果を5つに分けたグラフが表示される。

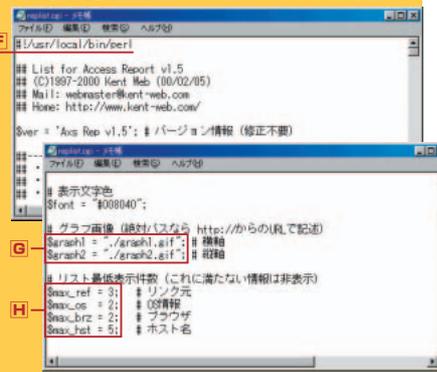


自分のサイトに張られているリンクが一覧表示される「リンク元の取得」。

- 的には「2」に変更するのがオススメ。symlink関数を使用できるプロバイダーであれば「1」を指定する。
- E \$get_remotehost = 0;
- ホスト名を取得したい場合に設定を変更する。多くのプロバイダーではここを「1」にすることでホスト名を取得できる。ただし、@niftyの場合には取得できず、代わりにIPアドレスが表示される。

[replist.cgi]

- F #!/usr/local/bin/perl
- 最重要の1行目。注意点は「report.cgi」と同様だ。
- G \$graph1 = "/graph1.gif";
\$graph2 = "/graph2.gif";
- グラフ表示に使う画像ファイル「graph1.gif」と「graph2.gif」のURLを指定する。「replist.cgi」と同じディレクトリーに置く場合は、上記のままでもいいが、@niftyのようにCGIスクリプトと画像を別ディレクトリーに保存しなければならないときは、「http://homepage1.nifty.com/img/graph1.gif」のように「http://」から指定する。
- H \$smax_ref = 3;
\$smax_os = 2;
\$smax_brz = 2;
\$smax_hst = 5;
- リスト最低表示件数の指定。この件数以上ある情報のみ表示する。



アクセスログ解析サービスを利用する

設定が面倒なCGIと比べ、ウェブ上で簡単に申し込めるアクセス解析サービスは、決められたHTML文を既存のHTMLに組み込むだけでOKと、とにかく簡単なのが売り。手軽にアクセス解析を試みたいという人は試してみよう。



① サービス登録

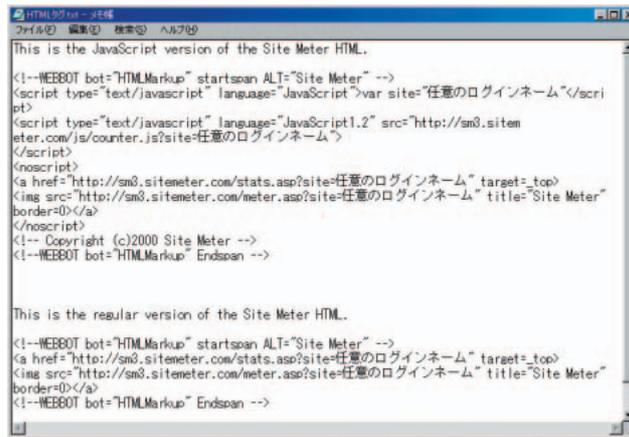
Site Meterを利用するにはトップページから「free Site Meter」と書かれているところをクリックする。すると、サービス登録画面が現れるので、ここから自分のサイトのURLやメールアドレスを入力すればOKだ。「sm3」で始まる任意のログイン用のアカウントネームを設定する必要がある。



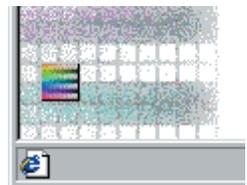
使用条件
無料サービスは「HTMLを編集しない」「ロゴは明確に見えるところに置く」「アダルトサイトの場合はNG」という条件を守る必要がある。

② HTML ファイルへの組み込み

サービスの登録が終了すると、登録したメールアドレスにログインするためのパスワードと、自分のページのHTMLファイルに組み込むための「HTMLタグ」が送られてくる。メールにはJavaScript版と通常のHTML版の2種類が書かれているので、自分の好きなほうをページのHTMLファイルの中にコピーして貼り付ければOKだ。JavaScript版は環境によっては正常に動作しないこともあるので、通常のHTML版を使うのが無難だ。

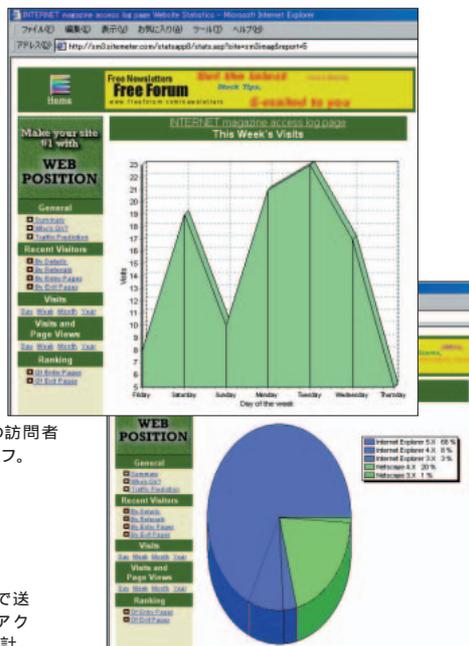
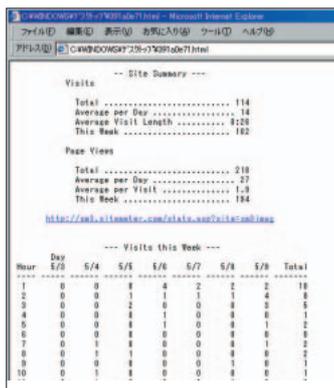


HTMLタグをページに組み込むと小さなアイコン(下)が設置される。これ以外にも指定のロゴやカウンターが用意されており、登録するときや管理画面で選択できる。



③ アクセスログの取得

アクセスログは電子メールによって自動的に送られる。送る頻度はウェブから設定でき、「毎日」「平日」「毎週の好きな曜日」から選択する。もちろん、自動的に送らないようにも設定できる。



IP ドメインサーチを併用しよう

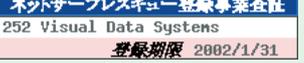
アクセスログの訪問者情報をチェックすると、IPアドレスのみが記録されている、ホスト名は記録されていないということが結構多い。こんなときにIPアドレスからホスト名を調べるやり方を覚えておくと、訪問者がどこから来たのかわからずにイライラすることもなくなるだろう。ホスト名を調べるには「IP ドメイン SEARCH」**Jump**というサービスを利用するのが簡単だ。これを使えば検索窓にIPアドレスを入力するだけで、ホスト名を瞬時に調べられる。企業や団体名を調べるときにも役に立つはずだ。

Jump www.mse.co.jp/ip_domain/

その日に訪れた人の使用ブラウザ比率のグラフ。このほか、使用ドメインや使用OS、DHTMLやスタイルシートに対応しているかどうかなど、その比率をグラフで表示する。

主なアクセスログ解析サービス

機能満載! 極めたい人向け

ウェブサイト名	Rockets WebStats	Visual Date Systems	Virtual Working
	webstatsz.office-server.co.jp	www.vds.ne.jp	www.virtual-working.com
料金	無料	有料 (315 円 ~ /月)	有料(初期 5,000 円、2,000 円 ~ /10,000 カウント)
ホスト名取得	x		
IP アドレス取得			x
リンク元取得			
生ログの提供			
ログ保存期間	1000 件	5KB まで	1 年間
リンク義務 (画像サイズ W x H)	(400 x 70)	(88 x 31)	x
画像			-
カウンター		x	
アクセスログ解析内容	日別、週別、月別、国別、OS、ブラウザ	日別、週別、OS、ブラウザ、ページ別	日別、週別、月別、OS、ブラウザ、ページ別
生ログまたは解析のメール通知	x		
リロード防止	x	x	
複数申し込み			
特筆事項	訪問者の画面解像度やインストールされているプラグインもわかる	ページごとのアクセス数の集計、リピーター順位、ロゴのデザインが多い	各アクセスにおけるリピーターの割合を表示

ウェブサイト名	ウルトラランキングリサーチ	Footmarks	じょっぱり商店街
	www.ultraranking.com	snowman.ttc2000.co.jp	www.joppari.ne.jp
料金	有料 (6,000 円 /3 か月)	有料 (初期 3,000 円、6,000 円 /3 か月)	無料
ホスト名取得			x
IP アドレス取得	x		
リンク元取得			
生ログの提供			
ログ保存期間	3 か月	2 か月	1 か月
リンク義務 (画像サイズ W x H)	x	x	(90 x 30)
画像	-	-	
カウンター	x	x	x
アクセスログ解析内容	日別、週別、月別、OS、ブラウザ、ページ別	日別、週別、月別、OS、ブラウザ、ページ別	OS、ブラウザ
生ログまたは解析のメール通知		x	x
リロード防止		x	
複数申し込み			x
特筆事項	ランキングに登録一部無料サービスもあり	2週間無料体験	有料でホームページベース(出店)やサービスを提供、自分のホームページを「アパートの地下室」に要登録 (無料)

手軽に使いたい人向け

ウェブサイト名		料金	ログ取得 (ホスト名 / IP アドレス / リンク元 / 保存期間)	生ログの提供	リンク義務 (画像サイズ W x H)	カウンター	アクセスログ解析	メール通知	リロード防止	複数申し込み
アクセス診断	www.3rise.co.jp/acs/	有料(新規 15,000 円、継続 5,000 円 /2 か月)	/ / / 2 か月		x	x	日別、曜日別、ページ別	x	x	
ホームページレンタルショップ	www.alles.or.jp/pub/papa/rent/	有料 3,000 円 ~ /6 か月)	/ / / 500 件		x	(有料)	日別、OS、ブラウザ			
LittleThing	lt.qupa.com	無料(ポイント制)	/ x / / 3 日間		x	x	日、曜日、週、平均、ページ別	x	x	
Xero	xero.xox-is.com	有料(初期 500 円、1,200 円 ~ /3 か月)	/ / / 2000 件(60 日間)		x		日別、週別、月別、OS、ブラウザ、ページ別	x		
無料! Web レンタル屋	kyouei.caitsith.ne.jp	無料	/ x / / 1000 件	x	(105 x 35)	x	OS、ブラウザ	x	x	x
金さんねっと	www.kinsan.ne.jp	無料	/ x / / 1 か月	x	(476 x 77)		日別、週別、月別、国別	x	x	
ズーコムズ・ページカウント	www.hashi.com/pg/	無料	/ x / / 1 か月	x	(476 x 77)		日別、週別、月別、国別	x	x	
Free COUNTER Land	www.keiichi.com/count/	無料	/ x / / 5 日間	x	(570 x 40)		日別	x	x	x
WEBTRIP	www.webtrip.net	無料	/ / x / 50 件		(カウンター数字)		OS、ブラウザ	x		
Free Log	port-system.net/freelog/	無料	/ / x / 1 件		(88 x 31)	x	ブラウザ、OS		x	



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp